

## ご挨拶

## — 会長退任にあたって —

愛知県小児科医会 前会長  
北條 泰男

今年3月末で、愛知県小児科医会会長を退任致しました。まずはこの二期5年間の会務を支えて頂きました会員の先生方、役員の方、愛知県、愛知県医師会など関係諸団体の方々に心から感謝申し上げます。そして今後の医会を新会長の岡田純一先生に託すことが出来、新役員も決まり今は安堵致しております。

平成23年3月の臨時総会において会長としてご承認頂き、4月1日から会務に着きました。日を追って自覚したことは、昭和34年以来の愛知県小児科医会50数年の先輩の先生方の真摯な活動と歴史の重みでした。その自覚の下に日々課せられた会務を夢中で行ってききましたのがこの5年間でした。時間をたくさん使い忙しかったのは確かです。臨床医の仕事はやりがいがありますし、いろいろな時間の使い方は有ったと思いますが、私はどういう巡り合わせか小児科医会の仕事を行うことが愛知県小児科医会会長就任以前も含めて長くなりました。名古屋市小児科医会会長在任6年で1年半は愛知県小児科医会会長と兼務していました。名古屋市小児科医会副会長在任6年も含めると15年くらい医会活動に関わってきたこととなります。今から振り返りますといつの間にか年数を重ね、思ってもいなかった公務に就き、成り行きというのは分からないものだと思懐しています。もっと別の年数の過ごし方も有ったかと思うことも有り、これからは今まで出来なかったことも出来そうで、残りの人生を楽しみたいと思っています。

愛知県小児科医会の活動としましては、会員名簿の「関係委員会委員等」を見て頂くとお分かりですが、かなり広範にわたります。日本小児科医会関係9、愛知県医師会関係13、愛知県関係10、日本小児科学会関係2です。これ以外でも愛知県小児保健協会の理事など当て職で依頼される役職も幾つかあります。退任にあたりましては、私にとって印象深かった会務がいろいろ思い起こされます。またずっと記憶に残ることと思います。思いつくままに記載してみます。

愛知県広域予防接種事業のスタートに立ち会えま

した。愛知県小児科医会は平成13年と17年に予防接種広域化の要望書を愛知県医師会に提出しており、10年以上に渡る念願でした。広域化要望の根拠としては予防接種法の改正による集団接種から個別接種への推進の流れが有り、個別接種はかかりつけ医接種であり、当然広域化が必要になること、地域の特性を残すということは「誰でも」「どこでも」「いつでも」保険医療を受けられる国民皆保険の理念に反し、行政に地域性は有っても、医療に地域性は相応しくないこと、被接種者の利便性などと考えました。1期目の平成23年11月理事会で要望書を提出することが決まり、平成24年の愛知県医師会会長選挙に際して公開質問状を送りました。平成24年4月に13地区全部の地区小児科医会との連名で要望書を愛知県医師会会長に提出しました。医師会長の広域化への決意は固く、以後愛知県と愛知県医師会によって平成26年4月1日より定期予防接種の広域予防接種事業が開始されました。名古屋市も半年後に参加して、全国的に一番広いと思われる全県広域化が実現しました。また平成28年4月からは高齢者インフルエンザと高齢者用肺炎球菌についても広域化されました。任期終了間近で、平成27年12月8日に日本小児科医連盟愛知県支部を作ることが出来、愛知県小児科医会から医政を分離することが出来ました。区分した方が医政活動もやり易くなると思われました。平成28年2月21日には愛知県支部による医政の立派な会合が開催されました、最初の活動でしたが役員の方の努力で盛大に開催されました。また多くの組織の協力が得られました。会報100号記念号と子どもの健康を守る会第50回目の節目にも立ち会えました。#8000の民間業者への委託と相談時間の延長も有りました。ホームページを理事委員会による運営に移行することが出来ました。愛知県小児科医会が主催者の一つとなつての小児在宅医療実技講習会が開催されました。まだまだ思い出されることはいろいろ有りますが、紙数に限りがあります。

子ども時代や青年時代を大切に生きることは重要だと言われていますが、自分が大人になり老人になってから自分を支えて呉れるのは他ならない自分の子ども時代や青年時代の体験だと気づきました。子どもの大切さを子どもは未来を担ってくれるという視点から考えていたように思います。また元気な子どもを見ていると大人に元気が湧いてくるという視点でも見ていました。それは間違いではありませんが、自分が老年になってから気づいたのは自分の子ども時代や青年時代の体験が大きな意味を持っていたことです。今は自分にとっても自分の子ども時代や青